

調査問題から見える「授業改善のポイント」〈小学校 国語〉

2三 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかをみる問題
 [読むこと] 〈平均正答率 県 33.0% (全国比-1.4)〉

【授業改善のポイント】

調査結果の分析

- ・資料の中の複数の情報をもとにして、分かったことをまとめる際に、単一の情報のみを取り上げている児童が全体の53.4%であった。
- ・複数の情報を結び付けて考えを形成することに課題が見られる。



複数の情報から必要な情報を見付ける

○読む目的を明確にして、必要な情報を見付ける言語活動を充実する

- 活動例
- ・調べたことをまとめ、報告する文章を書く学習活動などにおいて、調べることを決めた後に、どんな観点で、どんなことを詳しく調べればよいかを表やカードを用いて整理し、読む目的を明確にする。
 - ・文章の中から必要な情報に線を引くなどして選び、表やカードを用いて観点ごとにまとめる。

○文章と図表とを結び付けて読む場面の充実を図る

- 活動例
- ・文章中に用いられている図表が、何を表しているのかを考え、文章のどの部分と結び付けているのかを、線で結ぶなどして視覚的に捉える。

3二 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる問題

[書くこと] 〈平均正答率 県 61.3% (全国比+4.7)〉

【授業改善のポイント】

調査結果の分析

- ・理由を明確にしないで、自分の考えを書いている児童が全体の17.6%いる。また、無回答の児童が全体の4.7%であった。
- ・読み手が考えを理解しやすいように、書き表し方を工夫することに課題が見られる。



反対する理由を明確にして意見を書く

○目的や意図に応じて、理由を明確にして考えを書く言語活動を充実する

- 活動例
- ・読み手が納得できるような理由や事例を示しながら、目的や意図を明確にして意見を述べる文章を書く。その際、「なぜなら〜」「理由は〜」「〜ので」「〜から」などの言葉を用いる。
 - ・自分とは異なる立場に立って、自分の考えを見つめ直す。その上で、予想される反論に対する自分の考えを整理し、「もし〜だったら」「たしかに〜だが」などの言葉を用いて、説得力が増すように書き方を工夫する。

○事実と意見とを区別して書く場面の充実を図る

- 活動例
- ・文章の構成を考える場面で、実際にあったこと、調べて分かったこと、自分の考えなどを、それぞれ異なる色の付箋に書き分け、構成表に整理する。
 - ・文章を書く場面で、「〜だそうです」「〜と書いてありました」「〜と考えました」などの言葉を区別して用いて、文末表現を工夫する。